



令和8年度

佐久地区社会教育連絡協議会  
研修会資料

佐久市社会教育委員会議

# 本日の発表内容



佐久市特別観光PR大使  
佐久の鯉太郎三二

- ① 佐久市の概要
- ② 佐久市社会教育委員会議の変化について
- ③ 活動内容
- ④ これから

①

# 佐久市の概要



現在の佐久市は2005年に佐久市、臼田町、浅科村、望月町が合併して誕生しました。

浅間山、八ヶ岳、蓼科山、荒船山などの雄大な山々に囲まれ、豊かな自然と文化が息づく高原都市です。

◆ 人口 96,856人 (月日時点)

総人口県内4位 社会増加数県内1位

◆ 日本三大 ケーキのまち

東京都自由が丘 兵庫県神戸市に並ぶ！

◆ 「北斗の拳」の聖地！？

原作者の武論尊先生は佐久市出身 市内15ヶ所にマンホール設置



## ② 佐久市社会教育委員会議の変化について

### 佐久市社会教育委員会議の概要

◆ 人数 12人

あて職 8人 学識経験者 4人

あて職は、  
学校長、公民館、補導、スポーツ、市民活動  
人権、文化振興など多様なジャンルから推薦

◆ 年間会議

定例会 4回 教育委員との意見交換会 1回

◆ 任期 2年間

◆ 事務局 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

# 以前の佐久市社会教育委員会会議は……

会議は定例的に集まって、事務局から市教育委員会事業についての計画と報告の説明を受けることがメイン。

佐久市から特定事項の研究調査を諮問されることも長らく無し。

各種研修へ参加し、社会教育委員としての活動は個人に任せるという状況。



「独任制」が認められている社会教育委員。

これも一つの在り方だけど、「佐久市社会教育委員会会議」  
として何か成し遂げたい！

そこで会議に改革が起こる……！



## 改革その1

# 社会教育委員だより「そよかぜ」を作成！

令和元年(2019年)に初めて発行！現在、13号まで発刊。

委員からの提案で、社会教育委員の知名度向上や、活動内容の周知を図る目的で作成。

佐久市のホームページに掲載のほか、公民館・図書館・社会体育館等の社会教育施設に設置。

内容は研修や大会の報告、社会教育委員会議の活動、各自の活動、コラム等。

# そよかぜ

佐久市社会教育委員だより 第12号  
2025(令和7)年2月 発行

「そよかぜ」…このタイトルのように佐久市に 社会教育の風を吹かせ、  
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！

そよかぜ12号  
2025年2月発行

## ★社会教育委員、こんなことやってます！★

### ■居場所づくりからウェルビーイングへ

(原英正委員)

社会教育委員会はこの2年間「居場所づくり」を目標に活動してきました。子育て支援であったり、コミュニティスクールであったり活動の具体的な場面でした。支援のためのカード作成を試みたりコーディネーターの皆さんと話し合いをしたりしてきました。その結果、少しずつ活動が理解されるようになってきたと思っています。

これから社会教育はどのような方向に進んでいけばいいのでしょうか。居場所づくりをしていく中で、佐久市民の幸福を考える必要があるのではないのでしょうか。社会では、ウェルビーイングという表現で幸福の形を模索しています。

今、私は全佐久PTA連合会の事務局を担当しています。PTAはコミュニティスクールの中核になっていく組織です。地域の子どもたちと共にある学校です。これからのPTA活動は社会教育の観点から運営していくことが大切だと考えています。

子どもたちの安全は登下校の地域の皆様の見守りがあって確保されています。増えていく高齢者は子どもたちから元気をもらう姿があります。地域の文化や伝統は、総合的な学習という形で、地域の皆様が学校の中へ入ってきていただくことでつながっていくのではないのでしょうか。その地域の文化の継承が子どもたちの幸せにつながっていくと考えています。子どもたちがやりたいことをやれる環境づくりを学校と一緒にやっていきませんか。地域の皆様の声を社会教育委員会に寄せてください。お待ちしております。

個人の幸福の実現をして、持続可能な社会を創っていきましょう。



【日本 PTA 川崎大会の長野県の PTA の皆様】

### ■社会教育委員の私

(金子修一委員)

後期高齢者になり公民館は卒業って思っていたら、充て職で社会教育委員に。  
会議では教職の方が多く技術屋の私には縁遠い。でも思い出したのは母の実家の高祖父。小学校の校長先生で長屋門の入り口に顕彰碑。優秀な教え子らに地域で奨学金を出し、有名大学の総長になった人が仲間と建立。従って親族に教員が多いから全く無関係ではないか。  
PTAから通学路の雑草が邪魔と言われれば草刈りと除草剤、子どもとの待ち合わせの公会場に時計が欲しいと言われれば設備。小学生の祇園祭りのお手伝い。冬の通学路の除雪、PTAの公民館での会議の設定、地元佐久大学の学生有志への郷土史資料の提供と敬老会と教室への参加の段取り。年2回の防犯パトロール。コミュニティスクールの会議は難しいが公民館活動も社会教育の一環とセミナーで。些細な事ばかりだが出来る限り続けよう。



### ■全国社会教育研究大会茨城大会に参加して

(大塚寛美委員)

今回の会場である水戸市民会館は、施設全体に耐火木材材が採用され、4層の吹き抜け空間「やぐら広場」は、縦横の梁が互いに支え合うように生まれ、訪れる人々を迎える魅力的な場所である。

1日目 全体会 12:30~17:00

#### ○歓迎のアトラクション

水戸市立五軒小学校の5年生による長文「借楽園記」の整然たる暗唱は、郷土への誇りと愛着が感じられる。

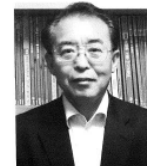


「借楽園記」とは徳川齊昭が借楽園創設の理念を記したもので、五軒小学校では「借楽園記」暗唱のほか「子ども梅大使」として借楽園でのおもてなしボランティアも行っている。

#### ○記念講演

あなたの知らない名字の世界

～名字には隠れた日本文化がある～



名字研究家 高橋 幸男氏

『あなたの知らない名字(みょうじ)の世界』

～名字には隠れた日本文化がある～

名字研究家の高橋幸男氏

柔らかな語り口に引き込まれた。全国を旅しながら名字を収集し、それらの名字の由来やエピソードを次々と披露される様子に、優しい人柄が見える。

## 改革その2

# 研究調査する活動テーマを 自発的に設定！

- 令和3年7月 案出し  
日頃感じる地域や活動の中で抱える課題・問題点
- 令和3年12月 ワールドカフェ  
課題や問題に対して社会教育委員として  
何ができるのか話し合い



※ 「ワールドカフェ」とは  
カフェのようなリラックスした雰囲気、少人数のグループに分かれて自由に対話を行い、メンバーを入れ替えながら多くの意見や知識を共有し、新たな気づきやアイデアを生み出すことを目的とした対話手法

# 委員が出した課題や情報

## 【家庭教育】

- ◆ 未就学児～児童・生徒の保護者への家庭教育の在り方

## 【地域の交流】

- ◆ 地域の交流やコミュニケーションの機会の減少
- ◆ 世代を超えて集まり、コミュニケーションをとれる場所がない
- ◆ 自分の地域に対する関心が薄い

## 【担い手・継承】

- ◆ 活動メンバーの高齢化
- ◆ 人材不足
- ◆ 若い人を活動に引き込みたいが、方法が分からない
- ◆ 地域に根を張り、継続的に活動する人材の育成が必要
- ◆ 活動を新しい世代へ引き継いでいく仕組みづくりが必要
- ◆ 行政の担当職員・学校の先生が人事異動等で変わった際も活動をストップすることなく、継続していけるシステムづくりが必要

## 【連携・情報共有】

- ◆ 多機関が連携協働するために、問題意識の共有や情報共有に時間や手間がかかる
- ◆ 求めている人へ必要な情報を届けることができていない

## 【支援を必要としている人へのサポート】

- ◆ 若者や高齢者など、悩みを抱え、支援を必要としている人へのサポートが不足している
- ◆ 産後、短期間で会社復帰をするお母さんたちへのサポートが必要

## 【発信の場づくり】

- ◆ 多世代が集まり討論できる場が欲しい
- ◆ 技術や能力をもっている人が力を発揮できる場が欲しい

## 【施設の利用】

- ◆ 災害時における社会教育施設の対応は十分か
- 〈社会体育施設〉
- ◆ 誰もが手軽に利用しやすいトレーニング施設が少ない(ランニングマシンやトレーニングマシン等)

## 【防災】

- ◆ 人とのつながりや備え意識の不足

## 【生きがいつくり】

- ◆ 子育ての息抜きや老後の楽しみとして、本当に活動を必要としている人が参加できていない

- ◆ 文化的資源の有効活用

## 【文化活動】

そうして決まった  
佐久市社会教育委員会議の活動テーマ

「みんなの『**居場所**』について考える」

## CSグループ

- ・「佐久市CSの活性化」を課題
- ・CSに関わる方々の「横のつながり」を生み出す取り組みを実施

## 多世代交流グループ

- ・「ひとり暮らしの高齢者、不登校・家以外に居場所がない子ども、一人きりで子育てしている方」の3つをピックアップ
- ・総合型スポーツクラブへのヒアリングを実施

## 子育て支援グループ

- ・「子育てに関する支援を本当に必要としている人へサービスや窓口の存在を周知すること」を課題
- ・「子育て支援マップ（仮）」の作成

# 佐久市にある居場所について広く把握

～R5年 6月末

## 佐久市社会教育委員会議

情報共有



情報共有



情報共有



CSグループ



多世代交流グループ



子育て支援グループ

# 佐久市にある居場所について広く把握

R5年 7月～

## 佐久市社会教育委員会議

情報共有



CSグループ

多世代交流グループは  
委員の任期交代のため、  
活動終了……

情報共有



子育て支援グループ

# CSグループの活動



- CSに関する情報共有の場を設置

各学校やコーディネーター間で情報共有する場がなく、他校の現状や活動について情報交換をした方がいいのではないかという考えから、小・中学校地域コーディネーターや小・中学校のCS担当者等に声をかけ「**CS関係者会議**」を令和5年から年に2回開催。

第一回目の関係者会議では事前にアンケートを取り、各校の課題や困りごとをヒアリングし、各校に共有した。

関係者会議の内容としては、CSの課題や成功例、地域と学校との連携等について情報共有と意見交換を行った。

# 活動から見えてきた課題

- ① 各CS内、各CS同士のつながりを強化する必要があること
- ② ボランティアが高齢化し、またその担い手が不足していること
- ③ 学校や地域において、CSの認知度が低いこと
- ④ CSが抱える悩みが行政と共有できていないこと
- ⑤ 関係者会議の主体がどこなのかあやふやであること



対策を提案！

- ① 関係者（学校担当者・地域コーディネーター）会議の開催
- ② 社会教育委員として各学校の実情を現地視察し、「社会教育委員だより」等を通じて情報を共有

# CSグループの成果

- CSの横展開の強化に貢献！  
佐久市が抱える問題点を全体で確認・共有できた。
- 地域との連携があまり機能していなかった中学校のCSにおいて、関係者会議に公民館等呼んで地域とつなげることができた。
- 好事例を発表することで、他校のいいところは自校に持ち帰り、各校のCSの発展や、モチベーションアップに繋がっている！
- 参加者から「やって良かった」「毎年やってほしい」との声が！



# 子育て支援グループの活動

- 市内の子育て支援窓口を把握

市関係の窓口や居場所として「学校教育課」、「子育て支援課」、「健康づくり推進課」、「生涯学習課」などの事業によるものがあるほか、「心のほっとライン・佐久」や各種SNS相談などがあり、複数の機能が分散、点在していることが見えてきた。

- 「子育て支援」を必要とする対象者の調査を実施

「子ども」は0歳～18歳までと幅広い。乳幼児の母親を対象にアンケートを行い、乳幼児は健診が定期的であり、支援の場が充実していることが分かった。教育移住者が孤独感を抱え、不登校児童・生徒について悩んでいることがヒアリングによって見えてきた。

# 活動から見えてきた課題

- ① 居場所の存在や支援情報が十分に周知されていないこと
- ② 継続的な運営のための財源確保が困難であること
- ③ 不登校児童・生徒の居場所が学校によっては出席扱いにならないこと
- ④ 相談窓口が多岐にわたり、利用者が適切な支援にたどり着きにくいこと

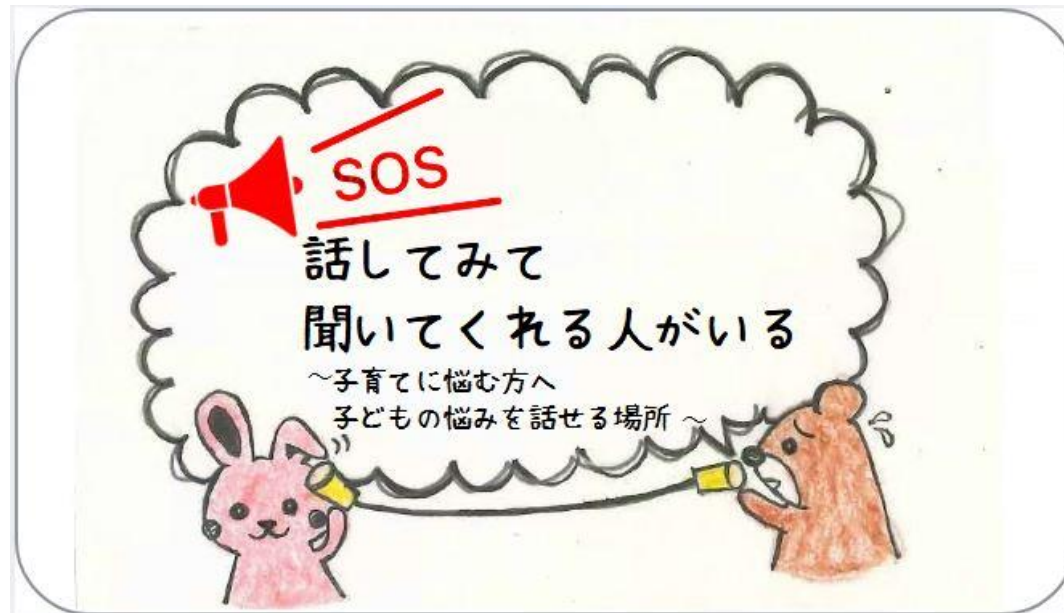


対策を提案！

- 分散する窓口を一元的にまとめるワンプラットフォーム化が必要  
そのための具体策： 情報を一元化したカードの作成をしたい！

# 子育て支援グループの成果

- 相談先をまとめたカードの試作版を実際に作成！
- トライアルとして〇〇にカードを設置！



# 全体の活動

- 教育委員との意見交換会

グループでの検討内容に教育委員の意見を反映すべく、中途の段階で把握を行うため、年に1回意見交換会を実施している。



- 現地視察

社会教育委員全体で上田市立第六中学校のサポートルームを見学。



# 社会教育委員会会議全体の成果

## 活動報告を教育委員会へ提出！

- 令和7年10月に教育委員会協議会にて、活動内容・課題・対応策の提案をまとめた報告書を提出。

## 教育委員会も提案内容を受けて議論！

### CSグループ

各校の現状を把握した上で、校長会等を通じた好事例の横展開や、地域コーディネーター会議の継続により、学校と地域の連携・理解を深める方針。

### 子育て支援グループ

福祉課の新システム（重層的支援体制）で情報の一元化を図る一方、委員提案の「一元化マップ」も利便性を考慮し、予算の範囲内で作成を支援。

# 「居場所」活動の中で大変だったこと・工夫したこと

- 「縦割り行政」の壁を実感

活動の中で行政に対してどこまで踏み込んでいいのかが分からなかった。

## 【CSグループ】

- CSの関係者会議を1回だけで終わらさず回数を重ねたことで、学校間の情報共有が進んだ。
- 関係者会議の準備に注力したこと。

## 【子育て支援グループ】

- 定例会議以外でも月1回程度グループで集まり、個々の活動で得た情報交換をしていた。頻繁に集まることで、グループの信頼関係を高められた。



# 佐久市社会教育委員会議のこれから

- 社会教育委員だより「そよかぜ」は引き続き発行  
掲示場所や周知方法は見直しを行っていく。
- 5年に1回の佐久市教育振興基本計画の策定のタイミングなので、これまでの活動を今後の施策に活かせるよう意見。
- 佐久市教育振興基本計画の内容に沿って、引き続き主体的な活動を行っていく。



A vibrant scene of numerous hot air balloons of various colors and patterns floating in a clear, bright blue sky. The balloons are scattered across the frame, with some larger ones in the foreground and smaller ones in the distance. The overall atmosphere is cheerful and celebratory.

**ありがとうございました！**